

【授業の到達目標および概要】授業のテーマ及び到達目標：

テーマは子どもの発達とその支援である。

- ・子どもの発達支援として、子ども自身に対する支援と同時に子どもの育ちの環境である家族や地域社会などに対する支援が必要であることを学ぶ。
- ・家族や学校、地域社会などで子どもが直面している問題についての理解を深める。
- ・子どもの育ちにとってのよりよい環境について、広い視野から考えることができる。（この科目の目標は発達支援について幅広い視野に立って精深な学識を得るというDPに関連する。）

授業の概要：

子育てに関する人々の意識の変化、核家族化、共働き世帯の増加など、子どもをめぐる環境は大きく変化している。いじめや不登校・児童虐待件数の増加なども社会問題化し、子どもの育ちに大きな影響を与えている。子どもの発達段階ごとに発達課題や直面している問題などを把握し、その現状、支援の実態などを学び、解決の方向を模索する。また、子どもを取り巻く環境のそれぞれの問題状況を明らかにし、子どもにとってのよりよい環境づくりについて多角的に考える。

【授業計画】

- ① 発達支援とは（発達支援、子どもの発達段階と発達課題、子どもを取り巻く環境の変化）
- ② 子どもの育ちと子どもを取り巻く環境（家族の機能、核家族化、少子社会、地域社会）
- ③ 子どもをめぐる諸問題（少年犯罪、いじめ・不登校など、児童虐待、子どもの貧困）
- ④ 青年期の親子関係と子どもの自立（青年期の発達課題、親離れ・子離れ、社会的自立）
- ⑤ 子育てへの社会的支援（親としての発達、子育ての現状、子育て支援）
- ⑥ 子育てとワーク・ライフ・バランス（ワーク・ライフ・バランス、育児休業制度、保育サービス）
- ⑦ 子どももおとなも育つ社会の構築を目指して—グループ・ディスカッション—

【授業外学習】

資料をよく読み、関連する事柄について調べて、授業に臨むこと。

【成績評価の方法・基準】

授業への参加態度・討論への参加（50%）、およびレポート（50%）により、総合的に評価する。

【教科書】

教科書は使用しない。資料は事前に配布する。

【参考書】

柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波書店、2008

社会保障入門編集委員会『社会保障入門 2024』中央法規、2024

長津美代子・小澤千穂子編著『三訂新しい家族関係学』建帛社、2023

日本家政学会家政教育部会編『家族生活の支援—理論と実践—』建帛社、2014

日本家政学会編『現代家族を読み解く 12章』丸善出版、2018

【教材】

特になし

【備考】

特になし